

神奈川県梨教会連合会より

かりん

「教務と信心」

横山光雄先生は、昭和二十四年十月二十六日に、後の丸子教会初代教会長横山敏三・トヨ夫妻の長男としてお生まれになりました。昭和四十五年には教師拝命後、関東教務所（現東京センター）や本都少年少女会など様々な場所で教務の御用を任せられました。昭和五十年に明子先生とご結婚。一男一女を授けられました。平成十二年に丸子教会教会長に就任。平成十四年には長男敏孝師が教師拝命されました。

重い心臓病をかかえ、幾度の手術を受けられながらも、おかげを頂かれ、病気を感ぜさせないフットワークで、日々教会内外の御用を任せられています。

○教務と信心を分ける、というのはどういうことですか？

光雄先生（以下…光）…先代教会長が教師拝命され、日々様々な御用をされている中で、教会は教会家族だけのものではなく、参拝にこられる皆のものである、ということを感じ

られるようになりました。

お結界で取次する時は、私は教師であり、皆は信徒であり、取次者として御用させて頂くが、神前から離れたら私も一信徒となる。教会の事は教師や子弟がする、信徒は参拝する、というだけでは信心が足りないのではないか。また、神前から離れたら同じ信心仲間であり、皆が金光教の信心

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第36回 丸子教会 横山光雄先生



を正しく理解する為に、誰でも自由に発言でき、忌憚なく信心の話・勉強が出来るものでないといけない。

ある、と皆が自覚して、教師信徒皆で教会内の御用の担当を決め、取り組ませて頂けるようにしようと、昭和四十六年頃から教務と信心を分け、より深い信心にさせてもらうべく運動が始まりました。

○御用の担当とは、どんなものがありますか？

光…まず教会会議を開き、教師信徒の中から主になる運営委員（十数名）が集まります。そこで、細かく担当を決めるのですが、大祭だけでも神饌係、さしみ係、直会係、準備片づけ…。それぞれの特技を生かして御用をして頂いたりします。

また、遠方の信徒は、月々のお祭の案内はがきを出してもらおう御用など、教会に頻繁に来なくても出来る御用をしてもらったりします。

○御用担当の表を見せて頂きましたが、約40程の担当があるのですね。丸子教会の信者さんのイメージは、フランクで、御用を楽しそうにされているように私は感じました。光…私は、教会はサロンの役割であればいいと思っています。これから先は特にそうなるのでは。

お結界では神様と参拝者の取次をさせて頂き、お結界外では忌憚なく信心の話をお互いして、信心を深めていく。自分達の教会だという意識を持って、よりよい信心を進めていきたいと願っています。

○ありがとうございました。（今村則子）



第 2 回教師・信徒共励会開催される

去る 8 月 30 日、甲府教会に於いて第 2 回教師・信徒共励会が午前 11 時より開催されました。(出席者 46 名)

開会のご祈念に引き続き、福田連合会長より、「第二回目の教師信徒共励会が山梨県で開催され、多くの方にご参加して頂き、有り難いことであります。本日は副連合会長の南清孝先生が運動の理解と実践についてお話を下さいます。また、班別懇談会では忌憚のない意見を出して頂き、共に信心の共励をして参りたいと存じます。」との挨拶があり、引き続き南清孝先生より、「神人あいよかけよの生活運動の理解と実践に向けて」という講題でお話がありました。以下講話要旨です。はじめに

① 信心の仕方、信心のすすめ方を、今掲げているのはなぜなのか、「しっかりと信心をしない」という、運動なのか。
② 「本気でお取次を頂いているのか。」「本心に神のおかげに、めざめているのか。」「と、神様から問われた気がする。
③ 自分にとって、この「運動」は、どうすることなのか。自らの信心を顧みる運動ではないか。
運動の理解に向けて

「神人あいよかけよの生活運動」は、平成 21 年立教 150 年のお年柄に、教主金光様がお示し下さった「神人の道」との、おぼしめしを頂いて、信奉者それぞれの生活の中で、信心の稽古を積み重ね、お礼と喜びの心をもって、周囲の人々とともに生きていくことを、

願いとしている。

この運動は、信奉者一人ひとりが日々の生活の中で、それぞれに取り組んでいくという性質の信心生活運動として、発足した。一人ひとりが、このお道の信心の筋道にそって、信心の稽古に取り組んで、「神人の道」を現しましょう、ということが運動で願われている。

この運動が目指す「神人の道」とは何か、「神人の道」とは、「氏子あつての神、神あつての氏子、あいよかけよで立ち行く道」、立教神伝で「神も助かり、氏子も立ち行き」と、神様が仰せられた信仰世界を表現したもので、信心の筋道にそって信心をすすめれば、おのずといたるところである。願いの 4 行目の「神心となつて、人を祈り助け導き」このことに、取り組むことによつて現わされる、本教の信仰世界である。

「神心となつて」とは願いの 4 行目に、「神心となつて、人を祈り、助け、導き」とあるが、3 行目の「お礼と喜びの生活をすすめ」に続けて、「人を祈り、助け、導き」でいいのではないか。ここに、「神心となつて」と、入れた意味合いは、何だろうかということが、自分自身の問題になった。ということでありました。

その他にも、登戸教会初代教会長である南吉三郎師の事例、信徒の方の事例をあげて話されました。

その後、昼食をはさんで班別懇談会を開き、15 時に閉会となりました。

(丸子教会 横山光雄)

○かりんの輪

「実意をこめて心磨き」

鶴見教会 太森 康子

祖父母が、金光教の信仰厚く、総代として神様の御用をされていました。私も幼少の頃から、参拝してまいりました。ご大祭には、吉備舞を奉納させて頂き、尊い思い出の一つです。成人し、結婚、育児と歳月を重ねて、参拝は滞り、昭和三十年に転居、横浜鶴見へ来ました。旅立つ時、教会の親先生から、「横浜の教会で信心しなさい」とお導き下さった言葉を忘れられず、ご信縁を頂きまして、鶴見教会に参拝させて頂いています。

諸先生から教話、ご理解、み教えの一つ一つ拝聴させて頂き、心にのこる所感を書かせて頂きます。

御理解、天地書附奉体の中で、『今月今日で頼めい おかげは和賀心であり』と示されています。本教信仰上の心得として、大切なおかげを蒙る秘訣と申されています。

「今月今日」とは、過去を悔やまず、将来を憂えず、今日一日を大切にせよとのみ教え。「今月今日」すなわち全人生なる所以と示されたものであることを知らねばなりません、信心の心得として示されています。

アスレチック
ザリガニ釣り
空き缶炊飯
みんなのつどい報告

夏休み初めの7月26日(土)、眩しい日差しの下、「みんなのつどい」が横浜市こども自然公園野外活動センター(横浜市旭区)で行われました。参加者は8教会から25名(8教会 大人18、小人7)でした。

駐車場で集合した参加者は、センターへ向かう道のりでモグラの迎えを受け、急遽モグラと握手&撮影会となりました。これから何が起こるのか：期待倍増の出来事を体験し、センターの野外炊事場へ到着しました。

まずはセンターの職員「キョロちゃん」から、炊事場での注意事項のレクチャーを受けて、最初のプログラムのアスレチックへ移動しました。ローラー滑り台などで遊びました。続いては、大池に場所を移してザリガニ釣り。炎天下の釣果は：2匹で、マツカチン(分かる人いるかな?)にはまだまだのサイズでした。

お腹をすかせて野外炊事場に帰った参加者を待っていたのは、熱々のバーベキュー：ではなく、何やら空き缶が2つ。さて、これで何をしよう。

それは「サバメシ」(サバの炊き込みご飯

ではありません、サバイバルメシタキの略称です)と言われる、非常時の炊飯技術をここで体験してみよう：ということ、今回は空き缶を使ってご飯炊きに挑戦しました。

2つの缶のうち1つの缶はコンロに、もう1つの缶はお釜になります。燃料は牛乳パックを細く切ったもの3パック分です。お米と水を入れたら、後は燃え尽きないうちにただひたすら牛乳パックの切ったものを入れていく。そんな作業を30分弱、皆さん上手にご飯が炊けていました。

その間に、お肉もおいしく焼けて、木陰に爽やかな風が通る、それだけ取れば「ここはホントに横浜市？」と言う環境で、昼食をいただきました。

最後に子供から大人まで一緒になってゲームを楽しんで、お開きとなりました。次回も多くのご参加をお待ちしております。

(子安教会 村田光治)



↑うまく炊けるかドキドキです



←炊き上がりです

次に、「神人(かみひと) あいよかけよの生活運動」の願いの中にある、「神人の道」とは、み教えに、

- 不足におかげはない
- 御礼と喜びの生活
- 実意、丁寧、真一心が要(かなめ)。
- 神心となつて、人を祈り、助け、導くと示されています。

教祖様は、『信心は年が取るほど位がつくものじゃ。信心をすれば、一年、一年、ありがとうなつてくる』と仰せられています。日に日に生きるが信心なりと、実意を込めて、御礼を土台として信心生活をさせていた

だきたい。日に日に、自分の信心を育てていくところに「真の助かり」も生まれてくると。

- 昨日(きのう)に感謝
- 今日を喜び
- 明日(あした)に希望

を奉唱し、みな様と共に信心の稽古にはげみたいと思います。

私も八十路を半ば過ぎさせて頂き、ありがとうございます。御礼の毎日でございます。

み教え、ご教訓を体して、心磨きに勤しみたいと思います。

ありがとうございました。



生神金光大神大祭日程

平成 26 年 神奈川山梨教会連合会

教会名	日 程
甲府教会	10月19日(日) 13時30分
鎌倉教会	10月26日(日) 13時30分
登戸教会	10月26日(日) 13時00分
横浜西教会	10月26日(日) 13時30分
大明教会	10月26日(日) 13時30分
子安教会	11月2日(日) 13時30分
横須賀教会	11月3日(祝) 13時30分
生麦教会	11月3日(祝) 13時00分
丸子教会	11月3日(祝) 13時00分
相模原教会	11月3日(祝) 14時00分
平塚教会	11月8日(土) 13時00分
鶴見教会	11月11日(火) 13時00分
大磯教会	11月14日(金) 13時00分
野毛教会	11月15日(土) 13時30分
神奈川教会	11月22日(土) 11時30分
小田原教会	11月23日(祝) 14時00分
藤沢教会	11月28日(金) 11時00分
武蔵小杉教会	11月30日(日) 11時00分
津久井教会	未定
南甲府教会	未定

併せて開教40年記念祭

お知らせ

○神奈川山梨教会連合会
ホームページのご案内○

連合会では、各行事の様子や総会資料、『かりん』などをホームページで紹介しております。
多くの皆様の閲覧をお待ちしております。

URL = <http://www.kyokairengokai.jp>
または

金光教神奈川山梨教会連合会

検索

でお楽しみください。

「講話と夕食の会」開催のお知らせ
○日時 11月29日(土) 15時～
○会場 神奈川教会
○講師 桜井邦朋氏
(元神奈川大学学長)
* 昨年に引き続き桜井先生のお話を伺います。
詳細は、各教会宛に届きます、チラシなどをご参照ください。

〈 な が れ 〉

「サバメシ」

子安教会 村田光治

「サバメシ」をご存知でしょうか。サバメシとは、「サバイバルメシタキ」、つまり、電気やガスが使えないところで如何にしてご飯を炊こうかと考えた人達が編み出した炊飯技術のことです。このところの災害の頻度を目の当たりにすると、自分には関係の無いこととは言い切れないと思わされます。
3ページ掲載の「みんなのつどい」の空き缶炊飯は、まさに「サバメシ」です。今回は、国際サバメシ研究会の方法を実践しました。以下は、そのHPに掲載されている文章です。
「サバメシ」は、アルミ缶と牛乳パックでご飯を炊こう！という、いわば一種の非常時の炊飯体験ではありますが、サバメシさえ知ってさえいれば被災後の生活がどうにかなる、というほど優れたアイディアではありません。(中略)では、サイバメシは、いろいろ私たちに何を教えてくれるのでしょうか。
○サバメシ、3つの目的
・ 災害時、知恵と工夫で生き残れ！
・ 災害で命を落とさない！
Do not think, Let's try!
すに合った方法を知り、考え、その場でしまし。またやり方で行うことが大切なので、是非一緒に体験

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

〒 221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五

金光教神奈川教会内